

昭和31年度に於ける本学人文科学関係者の学術論文発表

(除西京大学学術報告所載分)

氏名	論文題目	発表場所・誌名	番号又は月日
沖田 一	ジェイムズの「神聖な泉」	海潮音	12号(昭和32年2月)
寿岳 章子	抄物への眼	国語学会公開講演会	昭和31年11月
	抄物の会話文	国語学	28輯
樺島 忠夫	言語行動における制御の問題	国語国文	25巻2号
	品詞の情報量	大阪大学語文	17輯
	和歌と俳句の文章構造	国語学	25輯
	現代和歌の言語的様相	国語国文	25巻9号
花房 英樹	李白歌詩索引(単行本 644頁)	京大人文	昭和32年3月30日
西元 宗助	被差別意識の調査	教育学研究	昭和31年7月
坂田 一	道徳判断の調査と指導について	教育心理	第5巻3号
	同和地区の児童生徒のパーソナリティについて	関西心理学会第59回大会	昭和31年10月28日
	道徳的判断力について	道徳教育研究協議会全国大会	昭和31年11月4日
広田 君美	産業心理学(単行本)	三和書房	昭和31年9月
	エチノセントリズム	平凡社心理学辞典	
	グループダイナミックスの理論と応用	大阪精神衛生	3巻6号
	望ましい学級社会	児童心理	11巻4号
	学級における集団関係	昭和図書出版 教室の教育心理学講座	3巻
小田 丙午郎	ユダヤ民族の民族性と世界性	京都大学西洋史学会	昭和31年1月3日
米田 清治	産業革命始期におけるイギリス下院の構造—ネイアミ教授の見解を中心として—	知孝次郎編 イギリス資本主義の展開	昭和32年3月5日

11 疑問表現形式の史的変遷—会話文を中心として—	田 中 健 子
12 歌詞とメロディ	堂 本 淳 子
13 源氏物語の中の格助詞「が」「の」のありさま	富 家 栄 子
14 井伏鱒二の表現	三 浦 秋 子
15 芭蕉と杜甫	三 木 清 美
16 歌舞伎のもつ民話性について	南 井 宜 訓
17 畳語畳音について	由 井 節 子
18 近松戯曲に対する—考察—虚実皮膜論を中心—to	吉 川 喜美子
19 万葉と山—上古における人間と山より—	和 田 千代子
20 貞観彫刻論	岡 本 純 二
21 九鬼周造論	村 上 由貴子
32年卒業	
1 蕪村の詩精神	芦 田 敏 江
2 懸詞の表現美—源氏物語を中心として—	荒 木 佳 子
3 好色—代男の成立	井 村 淑 子
4 かの子のいわゆる“いのち”をめぐって	岩 本 久 子
5 六歌仙について	大 西 晟
6 西鶴における好色の問題—代男より—代女—	草 葉 信 子
7 接統詞の機能—言語主体の意識を中心として—	三 枝 協 子
8 雨月物語について	鈴 木 斐 子
9 心敬の文芸理念について—ささめごとを中心—to	千 田 与志子
10 坂口安吾のせつなさ—淫と痴と語りの世界—	長 瀬 良 子
11 中島敦の作品と中国文学との関係	中 西 佳 子
12 奥の細道について—その詩的性格をめぐって—	畑 中 一
13 樋口一葉の研究—にぎりえ—	服 部 節 子
14 芭蕉俳諧の象徴性	松 山 楊
15 若山牧水の研究	宮 嶋 淑 子
16 平家物語の女性について	三 好 敏 子
17 物語における作者介入の表現について—源氏物語を中心—to	塩 本 梨美子
18 上代問答歌の—考察	森 谷 久 重
19 世阿弥と歌道	山 下 昭 子

西京大学文芸学科卒業論文一覧表

18 世阿弥能楽論に於ける花の理念に就いて	山 崎 百合子
19 ヘーゲルにおける自然美と芸術美	山 鹿 陽太郎
20 Dewy 芸術論における表現の問題	山 田 浩 信
30年卒業	
1 宮沢憲治一人と作品	秋 本 富美子
2 源氏物語における笑について	芦 田 美登里
3 川端文学の抒情	安 藤 裕 子
4 堀辰雄の世界観	市 橋 益 代
5 金子光晴論	今 村 玲 子
6 切字について	上 田 恭 子
7 山口誓子論	内 山 圭 子
8 夏目漱石—明暗における私—	梅 津 悦 子
9 戯曲のこぼ—その言語的様相について—	江 口 百合子
10 横光利一の文体	加 納 寛 子
11 建礼門院右京太夫集の一考察	木 村 咲 子
12 枕草子の一考察	木 村 敬
13 暗夜行路—志賀直哉の自己主義—	滝 野 光
14 読者による文章への影響 —大衆文学と純文学の文章の比較調査—	林 美智子
15 一葉の日記の研究	早 川 由 子
16 樋口一葉論	正 木 とし子
17 岡本かの子論—その文学の世界—生命と虚無—	中 西 啓 子
18 鹿児島方言における形容詞表現展望 —文学四書抄と実態調査による—	松 元 涼 子
19 宮沢憲治と旅	丸 川 皓 子
20 芭蕉における虚構の問題	三 雲 映 子
21 隠者文学史上における芭蕉	南 不二子
22 意味と語感	吉 本 久 子
23 田宮虎彦論	狭 間 洋 子
24 日記に表われた紫式部の観照態度	八十島 喜久子
25 芥川龍之介論—その文学史的位置と詩的精神に就いて—	白 倉 泰 子
26 近世初頭における科学思想の問題	黒 瀬 優
31年卒業	
1 接統詞に関する二三の考察	宇津宮 史 子
2 和泉式部日記の敬語	岡 本 喜久子
3 堀辰雄におけるリルケの影響	蔭 山 たみ子
4 国語化せる英米語のアクセント	加 納 正 子
5 川端康成論	久保井 保 久
6 立原道造論	笹 原 聖 子
7 日本の口誦文芸と文字文芸—記紀万葉を中心に—	四 方 優喜代
8 副詞について	関 節 子
9 否定表現の語法—京都方言について—	相 馬 喜枝子
10 一茶の旅日記時代より七番日記時代への心境の考察	高 橋 清 子

32年卒業

- 1 福 田 桜 “高慢と偏見” に於ける登場人物の研究
- 2 藤 原 勝 次 ヘミングウェイの anti-ネオヒューマニズムに就いての研究—主として短篇小説に於ける
- 3 川 崎 富喜子 H. G. ウェルズ “Tono-Bungay” 研究
- 4 菊 沢 秀 子 “人間の絆” に於けるW. S. モームの女性観研究
- 5 蔵 重 れ い E. M. フォスター研究—主として “ハワーズ・エンド” に於ける
- 6 三 浦 昌 子 “ジェーン・エア” に於けるシャーロット・ブロンテの研究
- 7 中 本 博 子 オリバー・ゴルドスミス作 “ウェークフィールドの牧師” の研究
- 8 中 島 完 エミリー・ディッケンソンの詩に関する序論—彼女の作品の世界と特質
- 9 中 山 公 夫 サロメとの比較に於ける “ドリアン・グレイの肖像” 研究
- 10 坂 下 暢 子 ジョージ・エリオット研究
- 11 田 原 明 W. S. モーム研究
- 12 裏 谷 進 ディッケンズと “クリスマス・キャロル” とに就いて
- 13 藪 内 忠 子 コンラッドの “Almayer's Folly” 研究
- 14 山 方 保 E. A. ポーの Essay に就いて

Ⅱ 国語国文 (含歴史・芸術学)

28年卒業

- | | |
|---------------------|---------|
| 1 一般的危機の日本近代文学 | 青 山 省 吾 |
| 2 宮本百合子の「二つの庭」について | 赤 野 きぬ子 |
| 3 日本詩歌の性格 | 麻 田 妙 子 |
| 4 西鶴論—才覚と遊楽と人間性について | 西 田 尚 |
| 5 連歌のつくる世界 | 野 津 和 子 |
| 6 自然主義文学への一考察 | 中 田 愛 子 |
| 7 ギリシヤ悲劇におけるロゴスの意義 | 神 谷 完 |

29年卒業

- | | |
|--------------------------|---------|
| 1 萩原朔太郎論—近代精神の歪み— | 浅 井 律 子 |
| 2 日本詩歌に於ける親句疎句の論 | 浅 田 真知子 |
| 3 記紀歌謡から万葉における譬喩的表現の展開 | 荒 川 住 子 |
| 4 芭蕉における「季」について | 奥 川 紀 子 |
| 5 大宰治小論 | 小 谷 勝 一 |
| 6 蕉風連句の詩的世界の構成 | 小 林 栄 子 |
| 7 心の展開 | 小 林 伶 子 |
| 8 平安朝文学における白氏文集撰取に関する一考察 | 坂 田 矩 子 |
| 9 世阿弥の能楽習道過程について | 田 中 玲 子 |
| 10 西鶴の「世間胸算用」 | 土 井 紀美子 |
| 11 近代日本の小説における虚構性 | 中 井 イチ子 |
| 12 徒然草のスタイルについて | 中 尾 賢津子 |
| 13 係結の感情曲線—古今集にあらわれた— | 西 村 京 子 |
| 14 能楽における物真似について | 丸 岡 玲 子 |
| 15 万葉集譬喩歌考 | 三 島 宣 子 |
| 16 恋愛と文学と人間と—五人女を中心に— | 水 野 恵之助 |
| 17 戦後日本文学の展開 | 三 善 貞 司 |

西京大学文芸学科卒業論文一覧表

(自 28 年 至 32 年)

I 英文専攻

28年卒業

- 1 滝川 勇 ワーズワスの自然観の諸相
- 2 安田 敏雄 欽定訳聖書に於ける英語の言語学的研究
- 3 原 正篤 W. S. モームのリアリズムに就いて
- 4 山本佳子 マッシュェー・アーノルドより T. S. エリオットへの文化観の発展—宗教と文化との関係を中心とした

29年卒業

- 1 谷川 千恵子 “高慢と偏見” を通して見たジェーン・オースティン研究
- 2 大島 富子 D. G. ロゼッティの Ballads 研究
- 3 妙見 芳文 オスカー・ワイルド “獄中記” 小論

30年卒業

- 1 片岡 貞子 ヘンリー・ジェイムズ “ワシントン広場” に就いて
- 2 山田 節子 “高慢と偏見” 研究
- 3 岡本 幸一 エミリー・ブロンテ研究—嵐ヶ丘の主題と彼女の詩に就いて
- 4 村田 宣 “緋文字” 研究
- 5 上田 喜子 ウイラ・キャザーの自叙伝的小説の研究
- 6 六浦 基 “月と六ペンス” 研究
- 7 綾木 幹雄 ヒューマニズムに関するロバート・バーンズの温健的革新思想について
- 8 酒井 広子 ウォルター・ペータ研究
- 9 酒田 昌子 ホイットマン “草の葉” 注解
- 10 菊田 節子 “世界市民” 研究
- 11 三好 弥好 ヘミングウェイ研究
- 12 中川 啓史 ハーマン・メルヴィル “白鯨” 研究

31年卒業

- 1 浅井 照子 E. M. フォースター “インドへの道” 研究
- 2 井上 和賀子 G. B. ショオ “人と超人” に就いて
- 3 喜多川 信男 “死んだ男” に関する D. H. ロレンス研究
- 4 島本 美智子 サミュエル・バトラー “万人の道” に就いて
- 5 塚本 一夫 ヘミングウェイの思想とその短篇小説の研究
- 6 永田 智津子 ビアス 研究
- 7 早川 徹 “白鯨” 研究—その象徴的意味の分析
- 8 福西 代志子 シンクレア・ルイス “アロースミス” に就いて
- 9 藤本 綾子 E. C. ギャスケル “クランフォード” に関する研究
- 10 三方 和子 トーマス・ハーディ “ダーバヴィル家のテス” に就いて
- 11 三宅 玲子 “天路歷程” 研究
- 12 山田 雅子 “緋文字” 小論